

高梁川総合開発事業における生態系について

建設省岡山河川工事事務所 賛 笹岡 総一
 建設省岡山河川工事事務所 賛 松岡 弘久
 建設省岡山河川工事事務所 賛 ○水谷 一馬

1. はじめに

高梁川総合開発事業を進めるうえで、環境保全について適正な配慮を確保するために、平成11年6月12日に施行された環境影響評価を実施している。その中で環境要素の1区分として新規に追加された生態系の中の「上位性」と「典型性」の調査結果について述べる。

2. 高梁川総合開発事業の概要

高梁川総合開発事業は、岡山県西部を流れる高梁川において、その河口から約13.4kmで合流する支川の小田川の合流点を約8.8km（現況より約4.6km下流）へ付け替え及び新しい合流点付近に柳井原堰を建設する。それにより、

- ①治水
- ②流水の正常な機能の維持
- ③水道用水の確保

が期待でき、小田川流域の相次ぐ洪水被害（内水被害）の軽減及び倉敷市をはじめとする水道用水の新たな水源確保を行うものである。



3. 上位性の調査

上位性では、食物連鎖の上位に位置する種の生息環境の現況を把握し、上位性からみた当該地域の生態系を表現する。高梁川総合開発事業では、生活史をとおして主に事業実施区域である小田川周辺の環境を利用しているサギ類を注目種として想定し、この分布及び生息状況等を調査した。具体的には、踏査によりサギ類の出現位置を平面図上に記録し、この結果を単位面積当たりの出現回数に換算し、出現頻度の高いエリアを抽出した。この結果より、事業実施区域である小田川を中心に生息するサギ類を上位種とする生態系の存在が推定された。（図-1参照）

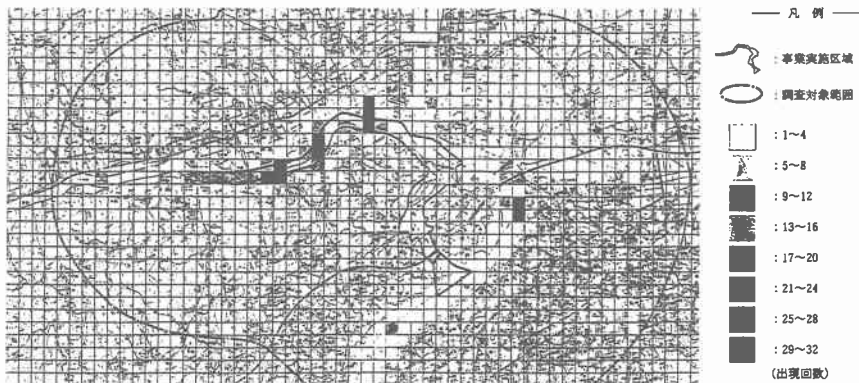


図-1

